

Amami  
Oshima

We are here

鹿児島県 奄美大島

# 大和村 の教育



協働的な学びの充実



合同遠隔授業



こども議会



二十歳のつどい



ソフトボール大会



まほろば大和ウォーキング大会



公民館講座



アスリートによる授業



大和村教育委員会

〒894-3192

鹿児島県大島郡大和村大和浜 100 番地

電話 0997-57-2154 / FAX 0995-57-2271





## 大和村はこんなところ

大和村は、鹿児島本土から南に約 380 キロメートル。東シナ海に浮かぶ奄美大島の中西部に位置する。

11 の集落が全て海に面し、背後には奄美群島最高峰の湯湾岳 (694m) とそれに連なる山々がそびえ、豊かな自然に囲まれている。奄美群島国立公園に含まれ、湯湾岳周辺は世界自然遺産に含まれている。



## 【特色ある 11 集落】



**国直 Kuninao**  
美しいビーチやフクギ並木がある。



**湯湾釜 Yuwangama**  
野菜の無人販所が人気。ムチモレ踊りが有名。



**津名久 Tsunagu**  
釣りの名所。ウミガメが居つく漁港がある。



**思勝 Ongachi**  
中央公民館、消防分駐所、郵便局がある。



**大和浜 Yamatohama**  
村役場があり、昔から村の中心的地域。



**大棚 Odana**  
診療所がある。スポーツや八月踊りが盛ん。



**大金久 Oganeku**  
海は珊瑚礁が美しく、トウリス岩がシンボル。



**戸円 Toen**  
冬は風が強く、海岸は人気のサーフスポット。



**名音 Naon**  
急峻な山に囲まれ、美しい名音川が流れている。



**志戸勘 Shidokan**  
遠浅の静かな入り江にある小さな集落。



**今里 Imazato**  
沖にそびえる立神が集落の守り神。



Youtube にて各集落で撮影されたご当地体操「すなおにキビキビ体操」公開中！

## 【大和村について】



### 村章

円形は、村民の融和と力強い団結を、青色は清らかな美しい心を表している。「大」の字で鳩を形どり、平和で大きく飛躍する願いが込められています。



### 村花 ツツジ

本村に多く自生。大和村が誇る景勝地・宮古崎や、嶺山公園はツツジの名所。



### 村木 モッコク

材質が固く木材として重宝され、特に沖縄への輸出で村の経済を支えたほか、伝統のアイノコ舟を操るヨボ（櫂）もモッコクから作られている。



### 大和村の特産品①

台湾原産の甘酸っぱいスイモモ。皮も中身も真紅で、実はガリガリとした食感がありますが、熟すとネっとりとして甘くなる。



### 大和村の特産品②

南国のみかん、タンカン。糖度も高く酸味も爽やか。福元盆地では、島内でも標高が高いため寒暖の差があり、美味しいと評判。

## 【祭り・伝統芸能について】



### 各集落の豊年祭

旧暦の 8 月 15 日直前の日曜に十五夜豊年祭として 5 集落が開催。旧暦 9 月 9 日直前の日曜にクガツクンチ豊年祭として 4 集落が開催。神事や相撲、余興など行われる。近年は敬老会も同時に行われている。



### 思勝のキトバレ踊り

祈祷払いの意で秋の行事。集落内の数カ所で輪になって八月踊りを踊る。



### 大和浜の棒踊り・ナギナタ踊り

棒踊りは、小学生から壮年までの男性が、6 尺棒や鎌を激しく打ち合う武術的な踊り。ナギナタ踊りは、女性たちが、丹波の国で本当にあった物語を絢爛豪華に再現し舞踏する。共に集落の豊年祭で演舞する。



### 湯湾釜のムチモレ踊り

旧暦の 10 月 16 日に家々の庭先で三味線や太鼓に合わせて踊る。踊り手は布で顔を隠し、男性は女性の浴衣を身に付ける。



### 舟漕ぎ競争

8 月最後の日曜に開催するひらとみ祭りにて開催される。7 人乗りの手漕ぎアイノコ舟で速さを競う。

## 【大和村教育行政施策】

### 《大和村教育委員会 基本目標》

# 「夢や希望を実現し 未来を担う人づくり」 ～あしたをひらく心豊かでたくましい人づくり～

一人一人をかけがえのない存在として大切に（人権尊重の精神を基盤に）

- |                               |                                 |
|-------------------------------|---------------------------------|
| (1) 生涯にわたりたくましく生きる力（知・徳・体）の育成 | (2) 郷土への誇りと愛着をもち、郷土の発展に尽くす人材の育成 |
| (3) 小規模校の特性を生かした教育の推進         | (4) 教育の情報化の一層の推進                |
| (5) 学校における業務改善の推進             | (6) 地域全体で子供を守り育てる環境づくりの推進       |
| (7) 生涯スポーツの振興                 | (8) 文化財保護と芸術文化の充実               |

## 【特色ある教育活動を展開する学校教育】

いっぱい挑戦 いっぱい失敗 いっぱい成長  
**大和小学校**

＝特色ある教育活＝

- 「最高だぜ！大和村」を実感する教育の推進（郷土の歴史学習、八月踊り、島唄・三味線、島口劇等）
- 地域素材の活用と豊かな体験活動の推進（QuruGuru、野生生物保護センター等の活用、さとうきび栽培と黒糖作り、すもも・たんかん収穫体験等）



〔たんかん収穫〕

よく遊び よく学ぶ チーム今里  
**今里小学校**

＝特色ある教育活＝

- 奄美の自然や文化に触れる教育活動（サトウキビ栽培、黒糖づくり、島唄、三味線、八月踊り）
- 地域と一体となった学校行事（合同運動会、校区文化祭）
- 遠隔システムを活用した大阪・対馬との交流学習



〔ハシケンさんと一緒に演奏〕

はきはき きらきら ぴかぴか  
**大棚小学校**

＝特色ある教育活＝

- 郷土の先人・自然・歴史・伝統・文化を大切にした教育活動の充実（米作り、餅つき、八月踊り、郷土素材を活用した道徳）
- ICTを活用したわかる授業の推進



〔米作り体験〕

個性の花咲く大和中  
**大和中学校**

＝特色ある教育活＝

- 生徒主体の郷土学習と国際理解学習の推進（郷土の食・歴史・自然等に関する学習と村主催「国際交流事業」参加による郷土愛の伸長）
- すももタイム、PLUM タイム等における個別学習と全教員が担当する道徳授業の実践



〔2年生郷土教育「郷土の歴史・文化」フィールドワーク〕

みんなが主役 みんながNo.1  
**名音小学校**

＝特色ある教育活＝

- 地域の伝統・文化の継承（郷土教育の推進）・むつみ会（高齢者の会）やティダの会（地域の有志の会）、名音八月踊り保存会との連携による伝統行事の実施（がやまき作り・八月踊り）



〔がやまきづくり〕

## 【ICT 機器の効果的活用】

大和村の学校の中には、複式学級を有する極小規模校が多いです。児童生徒数が少ないことで、個に応じた指導を充実させることができますが、協働的な学びの充実が課題です。そこで、複数の学校をオンラインでつなぎ、合同授業を行うことで、学びを深める実践も行っています。



## 【大和村独自の郷土教育「大和村スタイル」】

大和村の自然や伝統、文化等に関わる教育活動を教育課程に位置付けて、4つの小学校で集合学習という形で実践しています。

大和村を知り、大和村を好きになり、大和村を誇れる子供たちの育成を目指します。



フィールドワーク



地域人材の活用



他校との合同道徳授業

## 【大和村国際交流事業 台湾研修】

大和村の子供たちを海外に派遣することにより、外国の文化、歴史、風土などを学び、現地での交流体験を通して相互理解を深め、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、国際感覚を育むことを目的とした事業。

令和5年12月の1回目の派遣に続き、令和7年11月に大和中学校の生徒が台湾を訪問し、台北市立建成国民中学と交流を行いました。（今後も隔年で派遣予定）





## 【大和村の名所】



**クローサギミュージアム QuruGuru**  
アマミノクロウサギの保護や研究を行うための施設。楽しみながら学べてクローサギを間近で観察できる。



**奄美温泉大和**  
**ハナハナビーチリゾート**  
奄美唯一の本格天然温泉やプール、ビーチグランピングなどを楽しむことができる。



**宮古崎(みやこざき)**  
奄美群島国立公園の第3特別地域。岬一帯がリュウキュウチクで覆われ奄美群島の中でも特異な風景が広がる。



**奄美フォレストポリス**  
湯湾岳のふもとにある森林公園で、奄美群島国立公園の第2特別地域。昆虫観察やキャンプなどが楽しめる。



**開饒(ひらとみ)神社**  
黒糖製造の始祖である直川智を祀った神社。製糖や黒糖焼酎製造関係者がお参りに訪れる。



**磯平(いそひら)パーク**  
約 400 年前に国内で初めてサトウキビ苗を植えられた土地といわれている。村民体育大会の玉入れ用に蘇鉄の実の収穫をしていた。



**マテリアの滝**  
奄美フォレストポリス内にあり、「本当に美しい太陽の滝壺」という意味の美しい滝。昔は旅人が疲れを癒やす場所だった。



**湯湾岳(ゆわんだけ)**  
奄美最高峰で標高 694m。国立公園の特別保護地区であり、世界自然遺産エリアでもある。ボードウォークを上ると展望台がある。



**嶺山(みねやま)公園**  
平家の落人が追っ手を恐れて見張り台を置いた地と言われる。5 月には村花のツツジが観賞できる。夕日の名所として評判。



**徳浜(とくばま)の断崖**  
海上にそそり立つ高さ約 172m の崖。名音トンネルが通っている。展望台からは崖や海がよく見える。



**ヒエン浜**  
奄美群島国立公園第3種特別地域。大和村で最もサンゴ礁が発達した美しい海岸線にはアダンが群生し、オカヤドカリが多く生息している。



**今里の立神**  
奄美群島国立公園第2種特別地域。海上にそびえる海拔 62m の巨岩で、集落の守り神やノロ神信仰として崇められてきた。

## 【大和村の文化財】



### 国指定特別天然記念物

**アマミノクロウサギ** (昭和 38 年指定)  
奄美大島と徳之島の固有種で、特異で原始的な形質を有する等、学術的に重要な種。大和校は国の許可を受け昭和 38～平成 4 年まで観察飼育を行っていた。その他、ルリカケス、アカヒゲ、オカヤドカリ、オオトラツグミ、カラスバト、オーストンオオアカゲラ、トゲネズミ、ケナガネズミも天然記念物に指定。



### 国指定文化財国登録有形文化財

**今里小学校旧奉安殿** (平成 19 年指定)  
戦前・中の日本で、天皇皇后の写真と教育勅語を納めていた建物。終戦後、奉安殿は廃止されたが、学校の歴史の一部となり地域の人たちにとって時代を偲ぶ遺物となっている。

場所:今里クツレ



### 県指定有形民俗文化財

**奄美大島のノロ関係資料** (平成 18 年指定)  
集落の繁栄と安全・五穀豊穡等を祈るノロによる祭礼等に関する衣装・装飾品・祭祀具・古文書(辞令書)等のこと。平成 15 年に大和村中央公民館貯蔵の玉ハベラと首飾り、龍繡胴衣(リュウシュウドギン)の計 3 点が追加された。

### 大和村の文化財候補

**和家石垣** 和家は琉球時代以前から続く奄美の豪族で、藩政時代は島役人を務めていた。

**船乗り場** 昭和36年のバス開通まで浦内の人々が名瀬への物流航路として利用していた桟橋。

**今里の大木フクギ** 村内随一の胸高直径約1mのフクギが3本現存。樹齢は約400年以上と推測されている。



### 国指定特別天然記念物

**オキナワウラジロガシ林** (平成 20 年指定)  
奄美大島から西表島に分布するブナ科の常緑高木。大和浜の滝山川(タキノコヤマ)では神山として古くから保護されてきた。琉球列島の代表的森林であり、北限域の奄美大島で数少ない自然林として学術的価値が高く重要。場所:大和浜 滝山川



### 県指定有形文化財

**大和浜の群倉(ぼれぐら)** (平成 16 年指定)  
高倉は主に穀物を貯蔵するための倉庫。その高倉の集まりを通称「群倉」と呼ぶ。釘を一本も使用していない、柱は鉋で削り上げているのでネズミが登れない、風通しがよいので貯蔵物の保ちがよいなどの特徴がある。 場所:大和浜字瀧の川

### 村指定文化財

令和 8 年に以下が村指定文化財に指定された。新指定は、平成 19 年以来 19 年ぶりであった。

**大和浜・大榎・名音・今里の八月踊り** (令和 8 年指定)  
各集落で旧暦十五夜の豊年祭等で踊られる男女の集団舞踊。大和村の八月踊りは、踊りのテンポが次第に速くなる北大島、踊りのテンポが変わらない南大島の中間の様相がみられる。

**大和浜の棒踊り** (平成 8 年指定)  
明治 35 年頃、大和浜の井原基四郎氏により導入された。三部構成で踊られる。

**大和浜の雑刀踊り** (平成 8 年指定)  
既に 100 年近い歴史がある。おつや組登場・敵の藤島組登場・決闘の名乗り・決闘の舞踊・決闘・決着の流れで踊られる。

**今里のヨーハレ踊り** (平成 8 年指定)  
八月踊りが男女で輪になり踊るのに対し、ヨーハレは縦列の行列行進のような形態をとるのが最大の特徴。「ヨーハレ」とは「世祓」の意味。

## 【郷土の先人】

直 川智(スナオ カワチ/生没年不詳)

大和村大和浜出身。黒糖創始の祖。琉球に渡航中、台風に遭い現・中国の福建省に漂着。黒糖の製法を習い、苗を数本かくして持ち帰り、磯平パーク付近に試植した。

田畑 佐文仁(タバタ サブンジ/1678-1764)

現龍郷町出身。江戸時代中期に全島で数多くの新田を開拓。福元盆地でも新田開拓工事をし、今でも開田跡や隧道跡を見ることができる。

海老原 万吉(エビハラ マンキチ/1890-1965 頃)

宮崎県出身の船大工。大和村大金久に住み、琉球のサパニと奄美大島のイタツケの折衷舟であるアイノコ舟を考案。たちまち奄美全域に広がり漁で活躍した。

屋 実元(オク サネモト/1841-1908)

武下 喜美堅(タケシタ キミタケ/1845-1897)

屋は戸円出身、武下は大榎出身で、1877 年黒糖自由売買運動で陳情団に加わり、西南戦争に従軍した後、これからの世は「学問ど、学問ど」と学問の大事さを説いた。

奥田 愛正(オクダ アイショウ/1903-1981)

大和村大榎出身。東京高等師範教員養成所卒業後、母校大島中学の数学教師となり、46 年に同校長に就任。退任後は奄美群島政府文教部長に就任し、戦時中荒廃した島々の学校を再建に尽力した。